

“桐”に関する体験的貿易論

作原 猛 志

はじめに

明治、大正、昭和の戦後20年代まで、日本人の生活用品のなかで傑作の一つは桐下駄であったといわれている。今、実年の方々の中には、軽くて履き疲れのしない、素足で履いたときのやわらかい感触などご記憶の方も多いと思う。また桐といえば即座にタンスのイメージがわくように、われわれ日本人の生活に密着してきた桐との初めての出会いは、最大手の桐材專業卸売業者の依頼をうけて渡米し、アメリカ桐を関西ではじめてサンプル輸入した昭和50年5月にさかのぼる。自來約10年アメリカ桐材（原木）の輸入を手掛けたその意味では、今問題となっている日米貿易のアンバランスの改善にほんの僅かの役割を果たしてきたのではないかと内心思っている。

どんな種類の仕事でも、10年間もコンスタントにさせて頂けば、その商品に対する、ましてや自然に成育した工場生産によらない非規格商品ともいべき木材に対する愛情はいついつまでも心に残る一冊の書物ともいえるかと思う。人生50年にして

青年の特権であるチャレンジ精神に燃えたち、かつ未知の商品に対するロマンを求めて、はるかアメリカ東部のパラチアン山脈（Appalachians）の奥地へ年に数回、しかもいずれも厳しい冬の寒波と豪雪とたたかいたながらの旅を繰返したこの体験をいつの日にか実務面、経済面を中心にまとめてみたい願いから、以下桐利用の歴史、桐材の特性、用途、国内生産と輸入の現状、さらに桐材輸入上の諸問題を事例研究に中心をおき掘り下げることにする。

I. 桐材の概観

一、桐利用の歴史

桐は中国では瑞祥の木といわれ、百鳥の王であり、瑞祥の鳥とされている鳳凰は桐の木でなければ棲まないという伝説がある。わが国皇室でも桐は天子の御紋にふさわしいものとして皇室の御紋章になっている所以もかかる由来によるものであろう。桐は古来中国及び日本等の東洋諸国にて使用され、わが国においては天平の昔より琴、雅楽面として宮廷、神社、寺院の儀式に用いられたようで、また平安時代には「桐壺」（桐のある庭という意）の名が「源氏物語」にでていことから庭木として觀賞されていたことは明らかである。

鎌倉時代になってからは武家の鎧櫃や刀剣箱に、貴族、富裕階層の社会では高級な調度品に用いられたが、そのころはまだ庶民の使用する域には至らなかった。一般大衆の中で使われは

じめたのは徳川時代からで、長持、タンス、飯びつ、水桶などの生活必需品として欠くことのできないものとなり、また軽くて肌ざわりが良く耐磨性が強いのでその頃からようやく下駄材に用いられるようになった。この下駄は第二次大戦まで桐材全消費量の約70%を占めていた。ところが終戦を境として社会経済事情が激変すると生活様式も一変し、今まで主用途であった履物類は靴や草履に替わり、伝統ある和ダンスなども安価な洋家具類に押され気味となり、往時の結婚に持たせた桐ダンスの需要はとみに減少しているのが現状である。

二、桐材の特性

- 二一 非常に軽い……比重が0.3程度で国産樹種の中で最も軽く、バルサ（Balsa）熱帯アメリカ産の「オギリ科」の0.1、0.2に次ぎ世界で第二位である。
- 二二 軽い割合に強度がある……スギ材の強度の $\frac{1}{2}$ 程度の強さを持ち、とくに磨滅に強い。
- 二三 防湿性が強い……湿気や水分を遮断する力が強いので衣類や貴重品を保存する収納家具には必須の適材である。精巧に作られた桐ダンスの一つの引き出しを引いたり押ししたりすると隣の引出しが自動的に引っこんだり、出たりするのは、空気の逃げ場がない程精巧に作られたために起こる現象で桐ダンスの品質を見分けるポイントとなる。
- 二四 耐火性が強い……スギは摂氏240度で発火するが、

桐では約400度にならないと発火しない。しかも火がついても燃えにくいのが大きな長所である。

- 二五 耐久性が強い……昔棺桶や水桶に使われたことからみても非常に腐りにくい性質を持っている。これには恐らく防腐効果の大きいタンニンを含んでいることによるものと思われる。

二六 音響性に富む……多孔質で粘性をもっているので音を伝える力が大である故、琴や琵琶などの楽器に欠くことの出来ない素材である。

二七 材質が優美……材は灰白色で木目が明瞭、表面をカンナで削ると絹糸光沢を放って美しい。

二八 加工が容易である……材がやわらかく粘りがあるので切削や糊付きが良く、仕上りが優美である。

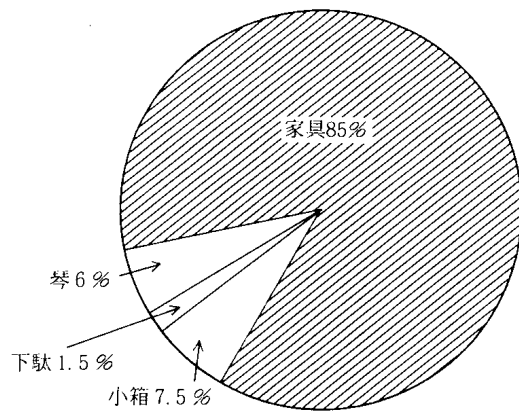
以上のように桐材はまことに珍しい木であり、かずかずの特性を備えているが、樹液が比較的多いので日光や空気にふれると黒変する。従って使用する前には風雨にさらし（琴材の場合には最低六カ月）樹液を滲出させて十分乾燥させる必要がある。

三、桐材の用途

最近の桐材用途別消費割合

具体的な内容は次の通り

- 三一一 収納家具……和ダンス、茶ダンス、サイドボード
- 三一二 一般家具……机、衝立、金庫の内箱
- 三一三 建 材……天井板、欄間
- 三一四 建 具……襖や屏風の骨、障子
- 三一五 履 物……下駄
- 三一六 楽 器……琴、琵琶、大鼓の胴
- 三一七 細工物……能面、舞楽面
- 三一八 小 箱……書類箱、貴金属入箱、茶器箱、軸箱、
刀剣箱
- 三一九 その他……羽子板、反物の巻芯、棺桶



重要な用途である家具類の販売不振のため、桐材のもつ工芸的価値を再認して新しい用途の開発に真剣な努力が払われている。

四、桐材の国内生産と輸入実績

(付表一 参照)

概観すれば、現在国内生産高は約15,000m³、輸入数量は約135,000m³、計150,000m³(国産材と外材の比率が1対9)が潜在需要をも含めた全消費量と考えて間違いないようである。15万m³という木材がどれ位の量となるか目に浮かべてみる一つの方法は、10トン・トラックに積載できる量は平均15m³、従って1万台の大型トラックで運び野積した状況を想起すれば大体の目やすがつくと思う。

因に1985年のわが国の木材全体の輸入数量は、3,400万m³、金額にして37億ドル(邦貨5,500億円)であった点からみれば桐材の輸入は数量、金額ともに極めて僅少である。

四一一 代表的な国内生産地

福島(会津桐)、新潟(越後桐)、岩手(南部桐)、その他秋田、郡山、岡山が主産地。

四一二 国内の桐材生産減少の原因

桐は元来畑地に植栽されていたが、第二次大戦の戦中、戦後に亘る食糧増産の必要により畑地が著しく減少した。

国土の緑化推進運動により、昭和25年頃より国費

の補助を受け増植が行なわれたが、戦後の急激な生活様式の変遷に伴なう下駄及び和ダンスの凋落の影響をもちに受けて農民の植裁意欲の減退と乱伐放任のための桐林の荒廢、更に米作一辺倒の開田事業による桐畑の廢止。

この間の桐価格下落により、仲買人へ「もうこれっさりだ」「もうこれ桐だ」と泣く泣く売らざるを得なかった農民の悲劇。

やがて国民の生活環境の好転による高級家具志向がすすみ、昭和50年前後より大量の外材が輸入され、益々国内生産の門戸を閉ざすに至った。

四―三

輸入材の台頭

戦後の植裁より約25年経過した昭和50年以降の国内桐は材質の良好にもかかわらず、一向に値が上がり、逆に下り気味となった。これは材質のすぐれたアメリカ桐が安く輸入され始めたことに起因する。昔から輸入されていた中国、南米材は低材質のためいくら輸入が増えても国内桐の価格に影響を与えなかった。

ここでは特にアメリカ桐について述べることにする。事実私が始めて買付けに行った昭和50年には、今から思えば太くて年輪が密、しかも真直ぐな長い原木が予想外の安い価格で買付けができた。

これはまだ当時アメリカでは雑木と考えており、立木の所有者は桐の大木を伐採してもらおう事をむしろ望んでいた。すなわち売値は二の次であった。約200年前にアメリカ東部のフィラデルフィアに移住した一人の中国人がその庭に植えた一本の桐の種子が風でとんでパラチャン山脈の広大な山野に自生したもので、当初は直径100cm、しかも高級家具に最適の密な年輪（Close annual ring）をもつ樹令100年以上のものが風雪に耐えて立木として現存していたことは、おどろきの一語につきるものであった。

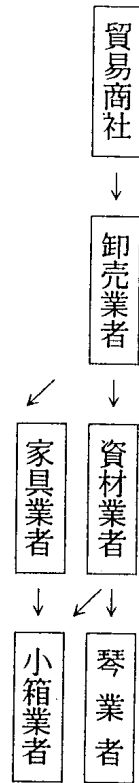
やがて、このアメリカ材の優秀な材質と価格の安いことが情報化時代のご多分に洩れず、桐業界関係者は我も我もとアメリカ詣でをするようになり、今まで桐の価値を知らず安売りしていたアメリカの仲買人は逆に日本の市場調査にきて輸出価格を毎年上げるようになり、最近ではかつてのアメリカ桐の魅力は影を失せ、輸入数量も減少の一途を辿っている。

（付表2と3参照）

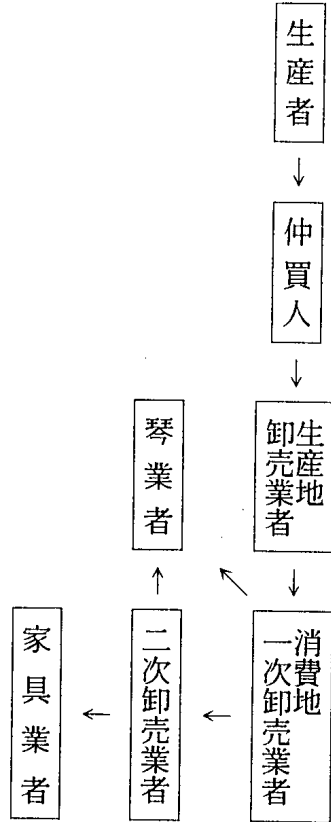
五、桐材の流通機構

桐材の流通経路は複雑で、しかも地方によっては多少異なるが、一般的には伐採集荷業者（仲買人）が生産者から立木、または原木（丸太）で買いとり、立木は一定の規格に合わせて丸太として卸売業者や加工業者に販売する形態がとられている。

〈輸入材の場合〉



〈国内材の場合〉



II. 桐材輸入上の諸問題—事例研究—(アメリカ桐原木買付の実態—経済性を中心として。)

一、原木集材に至るまでのプロセス

- 一—一 立木の伐採期間は木の葉が枯れて落ちはじめると月頃より翌年の3月までの間を原則とする。その頃になると樹液がなくなり、製材品(Lumber)の変色をきたさない。これは品質管理上重要なポイントである。

一—二

桐の葉が枯れると他の材木との識別が難しくなり、一本の桐の立木を探す時間がかさみ、Loggers(樵夫)に支払う労務費が割高となる。この回避策として、有力な仲買人(Log Collector)は毎年5月初めにセスナ機をチャーターして北はペンシルバニア州から南はサウスカロライナ州にまたがる広大なアパラチアン山脈(Appalachians)の上空を桐の花を求めて低空飛行し、航空地図に書きこみ、適格な場所をその雇用するLoggersに指示する。この費用はパイロットへ支払う費用も含めて半日4〜5時間で2,000ドル程度である。一度試乗してみたが、上空からハッキリと、かつ容易に桐の所在が確認された。

一—三

伐採は通常立木の所有者が入札のため複数の仲買人を桐林に召集し、最高価格の呈示者が落札するが、中には所有者と仲買人との親近の都合によって個人で単独に立木を買付けるケースもある。入札制のもとでは、過当競争を避けるため仲買人の間で談合が持たれるのが一般的である。

一—四

落札者はその雇用するLoggersに落札済みの立木を切らせ、集材ヤードへトラックで運ばせ買手の検品に便なるよう一本一本並列にならばせ、その到着を持つ。

一―五 仲買人より一回の船積数量（普通40フィート・コンテナで10本程度）の連絡を受けた買手は、検品の前日仲買人と価格の交渉を行なう。

二、価格交渉（付表4参照）

殆んどの輸入材の数量単位は立方米（ m^3 ）であるが、アメリカではBoard Feet Measure（BFM）という特殊な単位を使用する。付表4に示すごとく1,000BFM（約 $2.4m^3$ ）当りの価格が基準となる。

アメリカ桐のごとき植林によらない自然木には多くの欠点、すなわち節、キズ、穴などが多く、格付け（Grading）が極めて困難で、これは長年の勘に頼らざるを得ない。言いかえればJISのような標準がない。A、B、Cグレードの決定は売手、買手の直感と、相互の相手の立場を考へる心構へにより円満に解決されねばならない。これなくしては長期にわたる契約はあり得ない。

三、材積算定方法

三―一 International Scale, Scribner Scaleなども使われるが、一般的な基準はDoyle Log Scaleである。（付表5）この換算表を検品に携行すれば、末口直径と長さがわかればその場で表により、材積がわかり、従ってGradeが決まれば原木一本の価格が簡単に算出できる。

三―二 このとき、常にトラブルの因となるのは、仲買人

は長い木、例えば、（図I）のように14フィートあれば7フィートづつに切ることがある。というのは材積を決めるウェイトは直径にあるから、14フィート一本の直径より7フィートで切ったあとの直径は最初の径より大きい。よってそれだけ材積が多くなり、単価も若干増える。しかし通常買手としてはできるだけ長く切ることを希望する。長ければ必要量だけ使用してもあと若干残り、これを小箱などに転用できる。

三―三

更に格付け（Grading）も頭痛の種である。経験と勘によるものであるから売手、買手の側の意見の相異が大きい。極端な例をあげれば一本の木の格付けに延々3時間要したことはザラである。最後は全く常識的なGive and Takeの方法に落ちつくのはなんともし皮肉なものである。

四、検収後の処理

以上述べたさまざまな曲折を経て全数量の検収が終わればその確認措置として買手はハンマーで刻印を丸太の両サイドに打ちこみ、売手はLog Numberを特殊なNumbering Machineで添付する。その後Log Number, Diameter, Length, Gradingの項目からなるTally Sheet（手板と称す）を作成し、金額を計算して両者署名の上各一通それぞれ保有し、契約完了の

証とする。買手は帰国後「〇」（信用状）を開設し、売手より船積予定の通知を待つ。

五、桐原木の原価計算

正確な原価計算は不要な部分を切りとり、それぞれの用途に適するサイズに造材されるまで正確を期しがたい。そこで一応の目安として本数は不明なるも40フィート・コンテナーに積まれた全量に対しては次の計算を行うのが一般的である。

C.I.F.神戸（コンテナー一本） US \$15,000（平均）

（附帯諸費として）

- ・ 関税 5%
- ・ 通関料
- ・ くんじょう費（材の消毒）
- ・ 乙仲諸費
- ・ 国内トラック賃etc.

40% = US \$ 6,000

輸入原価 = US \$21,000

まとめ

一、わが国における桐材使用製品と物品税

高級な総桐タンスのほとんどは材質のすぐれたアメリカ桐を100%使用し、価格も一棹100万円以上のものが多い。またすべての家具、特に和ダンス、整理ダンスなどの内面（引き出し、側板など）は桐材を使用する。これは衣類の保存に適するとか、軽くて運び易いといった利点に加えて、材料比率で50%以上の桐材を使用すれば20%の物品税を免除するという桐業界保護政

策の一環に由るものである。

二、以上アメリカ桐原木買付の実態を实情に即して説明したが、最近では港から相当遠隔の山の中—そこでは切っても搬出が難しい—でないとい発見されず、おのずから国内輸送費の増大、インフレに伴うLoggerへの伐採労賃の高騰、ならびに1985年9月のO-11（先進5ヶ国蔵相会議）以降の急激なドル安、円高に基因する供給側の意図的な値上げ攻勢などにより著しく輸入量は減少し、アメリカの桐供給源としての地位が低下するに至った。

一方国内需要の面においては、最近の住宅事情による家具のユニット化の影響をうけ、現在以上の需要の伸びを期待することは不可能に近いというのが業界筋の悲観的な観測である。古くより日本人に親しまれてきた桐製品が今後関係業界と消費者との緊密な協力により新しい用途が開発され、再び国内市場に活性化を与える日の近からんことを願うものである。

〈参考引用書〉

- ・ キリ・ウルシー 小野、伊藤共著 1981年 農文協
- ・ キリ — 熊倉 著 1981年 農文協

<付表1>

桐材の生産・輸入実績（通関統計）

年度	国産材 (m ³)	輸入材 (m ³)	計 (m ³)	比率 (%)		備 考
				国産材	外 材	
^S 43	200,768	10,928	211,703	95	5	比率が逆転
44	166,339	13,235	179,571	93	7	
45	97,517	11,376	108,893	90	10	
46	98,925	19,204	118,129	84	16	
47	71,057	51,657	124,688	59	41	
48	55,389	36,406	91,795	60	40	
49	39,215	37,796	77,011	51	49	
50	26,41	55,089	81,503	32	68	
51	19,146	103,562	122,708	16	84	
52	13,910	98,161	112,071	12	88	
53	12,977	135,508	148,485	9	91	
54	15,856	188,761	204,617	8	92	
55	18,411	151,390	169,801	11	89	
56	16,363	124,129	140,492	11	89	
57	16,817	145,907	162,724	10	90	
58	14,937	136,296	151,233	10	90	
59	13,878	146,687	160,565	9	91	
60	14,299	136,848	151,247	10	90	

(注) 輸入材は原木と製品の合計

<付表 2>

桐原木輸入数量

年	S.55	56	57	58	59	60
m ³	56,544	35,633	39,863	32,662	34,475	24,124
%	100	63	70	58	61	43

国別桐原木輸入実績 (I) (S.59,S.60)

国名	S. 59		S. 60	
	m ³	千円	m ³	千円
中国	14,702	828,743	10,006	616,142
台湾	421	28,496	305	18,602
アメリカ	9,544	1,448,256	9,339	1,603,184
ブラジル	4,595	380,802	1,598	127,923
パラグアイ	3,015	274,716	1,461	124,225
アルゼンチン	2,199	214,652	1,415	134,694
合計	34,475	3,175,665	24,124	2,614,770

m³当り単価 (C.I.F.)

S. 59 (中国桐¥56,370) (アメリカ桐¥151,745)

S. 60 (中国桐¥61,577) (アメリカ桐¥171,665)

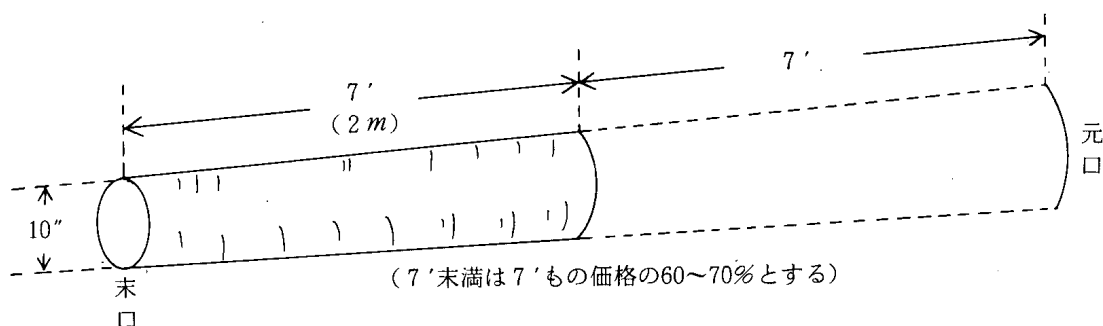
<付表 3>

国別桐原木輸入実績（Ⅱ）（S.61,1~6）

国名	m ³	千円	m ³ 当り単価
中国	6,793	323,949	¥ 47,689
台湾	285	13,868	¥ 48,660
アメリカ	6,843	1,107,210	¥161,801
ブラジル	738	49,683	¥ 67,321
パラグアイ	857	56,662	¥ 66,117
アルゼンチン	666	42,700	¥ 64,110
合計	16,182	1,594,072	

<図 1>

原木（丸太）の最小径と長さ



アメリカ原木価格表の一例 <付表4>

(CIF Kobe/per1,000 BFM in US \$)

GRADE	A	B	C	WEIGHT
Annual Ring Defects Dia. Length	Close & tight Extremely few	Fairly close & tight Few defects	Close & tight Some defects	To be ignored Extreme defects excluded
1. 20" & up, 7' & up	\$ 3,500	\$ 3,000	\$ 2,650	\$ 1,200
2. 16" & up, 7' & up	\$ 3,150	\$ 2,650	\$ 2,150	\$ 1,200
3. 12" & up, 7' & up	\$ 3,150	\$ 2,650	\$ 2,100	\$ 1,200
4. 10" & 11", 7' & up	\$ 2,200	\$ 2,000	\$ 1,650	\$ 1,200

DOYLE LOG SCALE

<付表 5>

BFM (Board Feet measure)

Circ.
Over
Bark

LENGTHS			Diameter			LENGTHS					
8'	10'	12'	14'	16'	"	9'	11'	13'	15'	17'	
18	23	27	32	36	10	20	25	29	34	38	35/37
24	31	37	43	49	11	28	34	40	46	52	38/41
32	40	48	56	64	12	36	44	52	60	68	43/45
40	50	61	71	81	13	45	55	66	76	86	45/47
50	62	75	88	100	14	56	69	81	94	106	48/51
60	75	91	106	121	15	68	83	98	113	128	53/54
72	90	108	126	144	16	81	99	117	135	153	56/58
84	106	127	148	169	17	95	116	137	158	180	59/62
98	122	147	171	196	18	110	135	159	183	208	63/66
112	141	169	197	225	19	127	155	183	211	239	67/69
128	160	192	224	256	20	144	176	208	240	272	70/73
144	181	217	253	289	21	162	199	235	271	307	74/76
162	202	243	283	324	22	182	223	263	303	344	77/80
180	226	271	313	359	23	203	248	293	336	383	81/83
200	250	300	350	400	24	225	275	325	375	425	84/87
220	276	331	386	441	25	248	303	358	413	469	88/91
242	302	363	423	484	26	272	334	393	454	514	92/94
264	330	397	463	530	27	297	363	430	496	563	95/98
288	360	432	504	576	28	324	396	468	540	612	99/101
312	391	469	547	625	29	352	430	508	586	664	102/105
338	422	507	591	676	30	380	465	549	633	718	106/108
364	456	547	638	729	31	410	502	592	683	774	109/112
392	490	588	686	784	32	441	539	637	737	833	113/116
420	526	631	736	841	33	473	578	684	789	894	117/119
450	562	675	787	900	34	506	619	731	844	956	120/123
480	601	721	841	961	35	540	661	781	901	1021	124/126
512	640	768	896	1024	36	576	704	832	960	1088	127/130
544	681	817	953	1089	37	613	749	884	1021	1157	131/133
578	723	867	1011	1156	38	650	795	939	1083	1228	134/137
612	766	918	1070	1225	39	689	842	996	1149	1302	138/141
643	810	972	1134	1296	40	729	891	1053	1215	1377	142/144
684	856	1027	1198	1369	41	770	941	1112	1284	1455	145/148
722	902	1083	1264	1444	42	812	993	1173	1354	1534	149/151
761	951	1141	1331	1521	43	856	1046	1236	1426	1616	152/155
800	1000	1200	1400	1600	44	900	1100	1300	1500	1700	156/158
840	1051	1261	1472	1681	45	946	1156	1366	1576	1786	153/162